

本年度は「雪、月、風、花」をテーマにして、人生に寄り添う本たちをご紹介します。
今号は花、それぞれの紹介文に託された言葉の花束を、どうぞ。

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



そのひとことが言えたら…
働く女性のための統合的交渉術
2005年 北大路書房
L. パブコック、S. ラシェーヴァー（著）
森永 康子（訳）

[100-4]

言いたいことが言えず困ったこと、ありませんか？
本書は、「交渉」について、女性と男性の違いから考察しています。女性が、ジェンダー規範や後々の人間関係を気にして、交渉を男性のよううまくできないのはなぜか、どうすれば社会が女性の要求を受け入れ、認められるようになるのか、様々な切り口から述べています。職場での交渉に関することを中心に展開しますが、そのスキルは家庭でも活かすことができます。

男性や企業の経営者、上司の方にも、女性の能力を引き出す手がかり等が参考になります。（かかし）



哀しみを得る
看取りの生き方レッスン
2017年 かもがわ出版

村中 李衣（著）

[1000-2]

ある日突然、家族の世話を一手に引き受けてくれていた母が、くも膜下出血で倒れた。家族一人一人が死に向き合い、思いと現実の狭間で四苦八苦する。

著者が、看取りという、誰も避けては通れない人生の大きな節目の出来事を「生きることのレッスン」ととらえ、たどりなおして著したのが本書。

看取りを終えて気が付くと、その道はいのち咲く道。どの花にも、咲き終えた後に託すものがある。できる限りのことをやり、「できるようになる」満ちていく時間をもらっていた、という言葉に共感。（ルナ）



ホームレス農園
命をつなぐ「農」を作る！
若き女性企業家の挑戦
2014年 河出書房新社

小島 希世子（著）

[1100-1]

「どうして就職しないのですか？」「就職したくても住所も電話番号もないから無理だ」。学生時代に路上で交わしたホームレスとの会話を心に残して…。数年後、農家と消費者を直接つなぐネットショップを立ち上げた著者。続いて畑の魅力を伝える体験農場を開設した。

一粒の種が水と陽の恵みを受けて花を咲かせ、やがて実となる野菜たち。その生育に必要な労働をホームレスに委ねることにより貧困問題にも取り組んでいく。順調に進むばかりではない取り組み途上の、失敗と前進の日々。いつか豊かに実りますように。（みっと）



むこう岸

2018年 講談社

安田 夏菜（著）

[1200-2]

物語の主人公はふたりの中学3年生。経済的には恵まれているが、家庭でも学校でも居場所を見つけられずにいる山之内。生活保護を受けながら小さな妹の世話までして懸命に生活を背負い、貯金も進学もできないと押しつぶされそうになっている樹希。

山之内は樹希から聞いた生活保護の進学制度に疑問を持ち、調べたことを樹希に伝える。樹希は制度を知ることによって希望を持ち動き始める。山之内もまた樹希の「今までなにしてたんだよ」の言葉で動き出す。

まだ進行形のこの物語。真の居場所とは。（ぽっと）